

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	ユニー株式会社
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	愛知県稲沢市天池五反田町1番地
工場等の名称	ヒルズウォーク徳重ガーデンズ
工場等の所在地	名古屋市緑区鳴海町字徳重18番地の44
業種	卸売業、小売業
業務部門における 建築物の主たる用途	物販店
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）
事業の概要	食品・衣料・住居関連商品等の販売
計画期間	令和3年4月1日 ～ 令和6年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

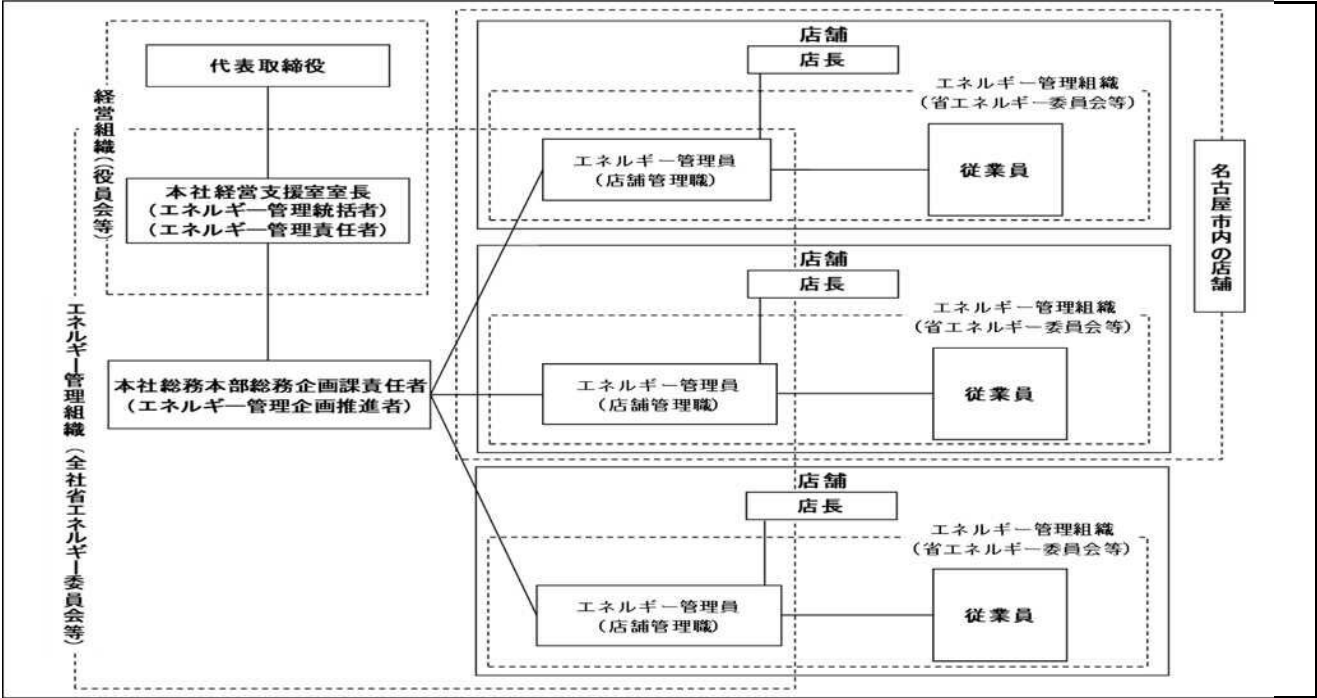
公表期間	令和5年7月26日 ～ 令和5年10月24日		
公表方法	○	掲示 閲覧	（場所） サービスカウンター
		ホーム ページ	（HPアドレス）
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	052-877-4711		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

環境負担の少ない。安心安全な商品を提供します。
限りある資源を大切に、省資源・省エネルギーに取り組み、廃棄物の減量・リサイクルを推進し、環境の汚染予防に努めます。
全社・全従業員が環境問題に関心を持ち、「環境活動」「環境教育」を通じて、継続的な改善に努めます。
環境保全に関する法律、ユニーの同意したその他の要求事項を遵守し、お客様ならびに一般市民・行政機関ともパートナーシップをとり、「人と環境に優しい社会」実現のために努力します。
この環境方針は、広く一般に開示します。
当該店舗で使用するエネルギー使用量を令和5年度までに令和2年度比3%削減する。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 4 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		4,018	t-CO ₂
（温室①を酸効除炭ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	4,018	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 2 年度		令和 5 年度		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度		
温室効果ガス総排出量		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂	
削減率（対 基準年度）				%		%		%	
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂	
削減率（対 基準年度）						%		%	

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 2 年度		令和 5 年度		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度		
原単位あたりの排出量	110.3	t-CO ₂ / 千万 m ³ ・h	108.1	t-CO ₂ / 千万 m ³ ・h	111	t-CO ₂ / 千万 m ³ ・h	112.1	t-CO ₂ / 千万 m ³ ・h	t-CO ₂ / 千万 m ³ ・h
削減率（対 基準年度）			2.0	%	▲ 0.6	%	▲ 1.6	%	%
原単位あたりのみなし排出量						t-CO ₂ / 千万 m ³ ・h		t-CO ₂ / 千万 m ³ ・h	t-CO ₂ / 千万 m ³ ・h
削減率（対 基準年度）						%		%	%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

令和4年度は夏期のガス使用量が増加した結果、基準年度よりも原単位あたりの排出量が増加しました。今後は積極的に省エネ活動に努めてまいります。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー対策 動力、空調	○空調機器清掃・整備による効率運転。 ○空調温度省エネ設定運転。 ○空調運転のこまめなオン、オフ運転。 ○従業員のエレベーター乗用禁止。 ○インバータ機器の適時導入。	電気エネルギーを三年間で 2 % 削減	○チューブ洗浄の実施 ○夏期28℃ 冬期20℃を設定 ○実施 ○実施 ○インバータ設置済
省エネルギー対策 照明・電気	○営業時間外の不要照明の消灯徹底。 ○後方施設の手元スイッチにてのこまめな消灯。 ○照明をLEDに変更	電気エネルギーを三年間で 2 % 削減	○実施 ○実施 ○LED化実施済(2018年実施)
省エネルギー対策 都市ガス 1 3 A	○空気燃料比の適正管理。 ○余熱の徹底利用。 ○省エネ機能付き機器への適時取替。 ○電気機器への適時切替。	ガスエネルギーを三年間で 2 % 削減	○業者の定期メンテナンス実施 ○希釈運転を有効活用 ○未実施 ○未実施
自動車対策	○アイドリングストップ・エコドライブの徹底。 ○余分な荷物をのせずに車体軽量化。		従業員が取組に意識を持ち、実施している。
廃棄物の排出抑制	○使用済み紙の裏面活用。 ○古紙回収・リサイクル化。 ○リサイクル可能物の分別徹底。	炭酸ガス換算にて三年間で 2 % 削減	従業員、設備担当者が取組に意識を持ち、実施している。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目（令和 4 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）
平成22年度	太陽光発電設備	年間発電量約5000kWh

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 2 年度目（令和 4 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

環境省 エコ・ファースト制度 子供環境学習 環境について学ぶための取り組み 環境にやさしい容器包装 環境配慮商品の開発、販売 生物多様性を守る取り組み

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

--